

## 2005年ロシアの銀行情勢

環日本海経済交流センター・アドバイザー 白鳥 正明

2005年ロシア経済は高い経済成長を維持したが、工業生産の増加率は半減し、消費財と設備機材の輸入増が続き、国民の収入増で預金は増加し消費増加で消費者融資が拡大し始めた。石油・ガス輸出税の増収による財政安定基金の積立増加は、通貨量の増加と企業の設備投資を抑制し、通貨需給のアンバランスで銀行流動性が低下し、消費者ローンの返済遅延が増加して銀行の信用リスクも増大しているといわれる。ロシア銀行界は2004年から個人預金保険制度が、2005年から信用記録制度が導入されて消費者ローンが増加しているが、大銀行とモスクワ周辺への銀行の集中と営業店の偏在が目立っている。2006年にはWTO加盟交渉で外国銀行のロシア進出規制の緩和が予想される。以下に主として中央銀行資料に基づき2005年のロシアの銀行情勢を概観する。

**ロシアの銀行業容拡大** ロシア銀行界では、個人銀行預金保険制度への加入申請をめぐる2004年5～7月の銀行信用不安で銀行の破産・営業停止により預金が減少した。2004年後半から2005年には、個人銀行預金保険制度の施行とともに銀行の信用が回復され、個人預金と企業預金の増加で貸付が急増し消費者金融も証券投資も急増した。2005年の国内民間貸付は2003年比で2倍に増加し、海外貸付・預金も銀行間貸付も約80%増加したが、政府貸付は微減した。銀行資産の増加は、国内預金の約80%増と海外借入の約2.1倍増で調達され、中央銀行からの借入は4分の1近くも減った。2004～2005年の業容拡大で資本勘定は81%も増加した。

**貸付急増の原因と影響** 貸付急増の直接の原因は銀行預金の増加、国債購入の減少、海外借入の増加、海外市場における債券発行による資金調達の拡大であった。期日経過貸付（不良化債権）は減少を続けているが2004年末現在なお1.45%もある。また、2年間で約3.7倍に増加した個人貸付はルーブル貸が85%を占め、約1.7倍に増加した企業貸付

は期限1年未満の短期貸付が50%超であるが2003年以来減少を続け、3年超の中期貸付の割合が増加している。個人貸付シェアが2年間でほぼ倍増しているのに対して、企業貸付シェアは82%から70%に低下したが、企業貸付金利は年10.3～11.5%を続け低下しなかった。2004年には国債投資が減少し、2005年には株式と企業社債への投資が急増した。（第1表）

**銀行の資金源泉** この貸付急増と証券投資の急増を支えた個人事業者を含む個人預金は、圧倒的に多く企業預金の3倍以上もあり、2004～2005年間に85%以上も増加した。企業預金も3倍近く増加し、預金総額は3兆6千億ルーブルに達した。しかし、中央銀行統計による個人預金、企業預金、銀行間預金には、銀行が短期的に運用可能な決済性の当座預金その他の一時的な預り金が含まれていない。これに対して銀行の貯蓄証書を含む債券発行は減少し、手形振出は20%増にとどまり、中央銀行借入は2004年に減少したが、2005年には38%増加した。（第2表）

ロシアの対外債務（借入及び債券発行）は2005年1～9月間に総額138億ドル増加したが、政府は252億ドルを返済し、銀行が109億ドル、民間企業が249億ドル増加した結果、2005年9月末の対外債務残高2,283億ドルのうち政府債務は722億ドル（31.6%）、民間企業債務904億ドル（39.6%）、銀行債務433億ドル（19%）となり、民間の対外債務が64%を超えた。民間対外債務の増加は380億ドルに達したが、これはルーブル換算（28.5ルーブル/\$）約1兆800億ルーブルで、2005年12月現在の預金総額の約30%に相当する巨額の資金源泉であった。しかし、全額が国内貸付に向けられたのではなく、海外預金や証券投資にも運用されて海外資産が急増し2004年は3兆4千億ルーブル、2005年には5兆2千億ルーブルの資産超過となった。（第3表）

安定した預金増加傾向 2005年12月1日現在の個人預金は2兆6,351億で企業預金8,736億の約3倍であった。ルーブル預金の割合は個人預金が75%、企業のルーブル預金は56%で、2003年以来増加傾向にある。また、企業の短期性預金（要求払い、30日以内）の割合が増加し長期性預金（1年超）の割合が低下傾向にあるのに対して、個人預金は短期性が相対的に減少し長期性預金の割合が増加している。また、企業預金は2004年中に約80%、2005年中（1～11月）に55%も増加したが、個人預金は2004年も2005年も約30%の安定した増加が続いた。（第4表）中央銀行統計によると2005年の個人のルーブル預金金利は要求払いが年3.8～4.5%、定期性預金平均金利が年8.4～10.2%で、公定歩合12%への引下げで12月の金利は年間で最低になった。

第1表 銀行貸付・証券投資（2003～2005年）

（単位：億ルーブル）

	* 2003年末 (A)		2004年末 (B)		2005.12.1 (C)		B/A%	C/A%
	金額	%	金額	%	金額	%		
個人貸付*	2,996.78	10.7	6,188.62	15.1	10,967.86	18.9	273.2	366.0
ルーブル	2,461.77	(83)	5,253.72	(85)	9,289.35	(85)	213.4	377.3
外貨	535.01	(17)	934.90	(15)	1,678.51	(15)	174.7	313.7
企業貸付	22,999.43	82.3	31,893.17	77.6	40,632.86	70.1	138.7	176.7
1年以内	14,261.30	(62)	19,248.62	(60)	23,255.25	(57)	135.0	163.1
1～3年	6,543.15	(28)	9,147.15	(29)	11,709.10	(29)	139.8	179.0
3年以上	2,194.98	(10)	3,497.38	(11)	5,668.51	(14)	159.4	258.4
銀行間貸付	1,958.74	7.0	3,034.40	7.3	4,917.88	8.5	154.9	251.1
貸付額合計	27,954.95	100.0	41,116.19	100.0	57,965.04	100.0	147.1	207.4
証券投資計**	7,408.59	100.0	8,934.74	100.0	12,090.18	100.0	120.6	163.2
債券	6,250.80	84	7,525.69	84	9,751.77	81	120.4	193.4
(内国債)	(4,469.7)	(60)	(4,356.1)	(49)	(4,670.6)	(39)	97.4	104.5
株式	984.26	13	1,212.79	13	2,036.02	17	123.2	206.9

2004, 2005 により作成。

\* 個人事業家を含む。 \*\* 子会社株式等を除く。 各年末の右欄は構成比(%)。

第2表 銀行の資金源泉（2003～2005年）

（単位：億ルーブル）

	2003年末 (A)	2004年末 (B)	2005.12.1 (C)	B/A%	C/A%
個人預金*	15,395.11	20,032.08	26,044.91	130.1	169.2
企業預金	3,125.23	5,640.09	8,736.48	180.5	279.5
銀行間預金	716.49	859.52	962.57	120.0	134.3
預金合計	19,236.83	26,531.69	35,743.96	137.9	185.8
債券**発行	1,636.38	1,334.44	1,227.18	81.5	75.0
手形発行	4,660.07	5,062.07	5,628.00	108.6	120.8
中銀借入	2,008.68	1,782.30	2,460.48	88.7	122.5

( ) , 2004, 2005 , ( ) により作成。

\* 個人事業家を含む。 \*\* 貯蓄証書等を含む。

銀行資産の集中と営業店の地域的偏在 注目されるのは銀行資産の上位大銀行への集中である。上位大5銀行への集中度は微減しているが、上位20銀行への資産集中が進み、2005年12月現在で200銀行に資産の90%が集中し、順位201以下の約1,000銀行が総資産の僅かに10%を占め、零細銀行が驚くほど多数あることが目立った。(第5表) また、営業店の地域的な偏在が目立っている。モスクワを含む中央連邦管区には銀行数の57%が登録されているが、他管区登録銀行営業店数が中央管区登録銀行店数の54%にすぎず、営業店の大部分が管

区内に登録された銀行の営業店で占められている。しかし、中央管区以外では逆に他管区登録銀行の営業店数が多く、シベリア管区では3.1倍、北西管区では2.3倍もあり、その他の管区では沿ボルガ管区が1.7倍、極東管区が1.6倍であり、銀行本部が少ない地方ほど他の地方からの銀行営業店の進出が多いことを示している。(第6表)

ロシアの外国銀行 2005年末現在、ロシアの非居住者出資(外資)銀行は136銀行で、その内100%外資銀行は41銀行であった。ロシアでは外国銀行の支店開設が認められないので、外資銀行はすべて外国銀行の子会社でロシア法人である。100%外資銀行のうち資本金が大きいのは、ライフアイゼン銀行(オーストリア)、国際モスクワ銀行(IBM)、Home Credit Finance(アメリカ)、ハンザバンク(ドイツ)、BNPパリバ(フランス)、スベンスカ・ハンデルス・バンク(スウェーデン)、モルガン・スタンレー(アメリカ)、ドイッチェ・バンク(ドイツ)、CITI Bank(米)、JPモルガン(米)、CSFB(米)

第3表 2005年ロシアの対外債務の四半期別推移(単位:億米ドル)

	1~3月	4~6月	7~9月	合計	2005年9月残高	
						%
対外債務 合計	61	88	-11	138	2,283	100.0
政府対外債務	-45	-17	-190	-252	722	31.6
中央銀行対外債務	-3	11	2	10	92	4.0
銀行の対外債務	20	32	57	109	433	19.0
企業の対外債務	85	52	112	249	904	39.6
外国出資者から借入	4	10	8	22	132	5.8

2005 , により作成。  
対外債務には非居住者からの借入金と海外における債券発行を含む。

第4表 企業及び個人の銀行預金の推移(2003~2005年)

	企業預金(億ルーブル)						個人預金*(億ルーブル)					
	2003年末		2004年末		2005/12/1		2003年末		2004年末		2005/12/1	
		%		%		%		%		%		%
預金総額	3,125	100	5,640	100	8,736	100	15,585	100	20,267	100	26,351	100
ルーブル	1,566	50	2,894	51	4,922	56	10,894	70	15,030	74	19,837	75
外貨	1,559	50	2,746	49	3,815	44	4,691	30	5,238	26	6,514	25
要求払・30日内	321	10	688	12	1,227	14	2,641	17	3,063	16	3,875	15
30日~1年内	1,814	58	3,057	54	5,058	58	5,917	39	5,399	27	6,365	25
1年超	981	31	1,893	34	2,451	28	6,620	44	11,310	57	15,490	60

( ) , 2004, 2005 , により作成。  
\*個人預金には個人事業家を含み、企業預金には当座預金等の決済性預金を含まない。

第5表 総資産の銀行集中度の推移(2003~2005年)

銀行総資産 の順位区分	2003年末		2004年末		2005年12月1日		同左累計
	億ルーブル	構成比%	億ルーブル	構成比%	億ルーブル	構成比%	
上位5銀行	24,003	42.9	32,169	45.1	40,509	43.1	43.1
6~20位	9,779	17.5	11,769	16.5	18,217	19.4	62.5
21~50位	6,223	11.1	8,380	11.7	10,958	11.7	74.2
51~200位	9,263	16.5	11,233	15.7	14,602	15.6	89.8
201~1000位	6,556	11.7	7,618	10.7	9,416	10.0	99.8
1001位以下	182	0.3	200	0.3	215	0.2	100.0
合計	56,007	100.0	71,369	100.0	93,916	100.0	

6. ( ) , 《 》, No. 39, 2006 .

HSBQ(英)、ドレスナー・バンク(ドイツ)の他、中国、インド、イラン、日本(みちのく銀行)等がある。外資銀行の資本金は2005年間に約260億ルーブルに増加(2.1倍)して全ロシアの登録済み資本金総額に対する割合は、2005年末には11.1%に急増した。ロシア国内の外資銀行の所在地は、モスクワ市の88銀行が最大でペテルブルグ市が8行、西シベリアのチュメニ、チェリアピンスク、オムスク各州に各3行、ウドムル共和国、アストラハン、ニジェゴロド、オレンブルグ、サマラ、スベルドロフスク各州に各2行の他、19の共和国・地方・州に各1行で、中央管区に93銀行(68.4%)、北西管区に12銀行(8.8%)が集中し、沿ボルガ管区に9銀行(6.6%)、シベリア管区に6銀行(4.4%)、南部管区に5銀行(3.7%)、極東管区に2銀行(1.5%)がある。

外資銀行資本金総額は過去10年間、ロシア全体の銀行資本金総額の5~7%で推移し、1999年に10.7%、その後は2001年に7.5%、2002年に5.3%であったが、2005年後半から増加し始めた。その原因は、米モーガン・スタンレー銀行の進出、既存のライフアイゼン銀行等の増資の他、預金保険制度や信用記録制度の実施、海外市場における株式公開(IPO)のためのロシアの銀行による外国銀行の出資勧誘などである。増加する海外市場でのロシアの銀行の株式公開には外資割当制が必要に

なるといわれるが、中央銀行はWTO加盟に備えて25%の割当限度設定を考慮しているといわれる。

ロシアの外資銀行の将来は、WTO加盟の2国間交渉で重要な争点の一つになっており、とくにアメリカは銀行含む金融業の市場開放を要求し、ロシアは通貨金融政策と課税権限維持のため伝統的に外国銀行支店を認めていないので今後の交渉が注目される。

**預金保険制度の発足 「銀行個人預金保険法」** 2003年12月29日、No.177-FZ)が2004年1月7日から施行され、10万ルーブルまで個人預金が補償されることになった。預金保険制度に加入した銀行は毎四半期に預金残高の0.15%の保険料を預金保険公社に納付する義務がある。2004年6月27日までの第1段階に1,186銀行が預金保険制度加入を申請し824銀行(98%)が認可され、否認された銀行は2004年9月28日期限の第2段階申請で加入認可が2005年中続き、2006年1月にも認可されている。2006年2月8日現在、預金保険制度の加入銀行数は932行、預金保険基金積立額は204億ルーブルに達したが、2006年中に76~86%増加して2007年1月には360~380億ルーブルになると予想されている。これにより補償金額を現在の10万ルーブルから28万ルーブルに引上げが可能になる。

第6表 銀行店舗の地域偏在

連邦管区	金融機関数* (A)	同左・管内店舗数 (B)	他管区銀行の管内店舗数 (C)	(C)÷(A+B) (%)	(A*B)÷全国銀行店舗数 (%)	(C)÷全国銀行店舗数 (%)
中央連邦管内 モスクワ市及び モスクワ州	716 648	217 177	506 108	54 13	21 18	15 3
北西連邦管区	84	55	322	231	3	10
南方連邦管区	128	151	319	114	6	10
沿ボルガ連邦管区	148	151	512	171	7	16
ウラル連邦管区	67	142	239	114	5	7
シベリア連邦管区	72	55	398	313	3	12
極東連邦管区	43	57	163	163	2	5
合計	1258	828	2459	118	46	75

\*当該管区内に登録された金融機関(銀行)数。他の欄の「銀行」は当該地域に登録された本店を示す。

5.

》,No.39, 2006.

**信用記録制度** 2005年6月1日から「**信用記録法** (2004年12月30日、No 218-FZ)」が施行され、預金保険制度の加入銀行は9月1日から顧客の情報を「信用記録局」に提供し共有する義務を負うことになった。「**信用記録局**」の登録と監督行政は連邦金融市場庁が所管する。現在、ロシアにはロシア銀行協会を中心に設立された(株)全国信用記録局と約157銀行が信用情報提供契約を締結し、さらに約200銀行が参加準備中といわれる。2004~05年はロシアの銀行にとって、信用情報制度の実施は前述の預金保険制度の発足とともに、中央銀行監督審査の強化と新業務と費用負担が増加した時期であった。この二つの新制度導入の目的は、消費者融資と住宅抵当融資の普及・拡大であった。

**銀行部門発展戦略** 2005年4月5日、連邦政府と中央銀行が「2008年までのロシア連邦の銀行部門発展戦略」(以下「**2008年への銀行発展戦略**」)を公表した。ロシアでは1998年金融危機の克服対策として2001年12月に銀行発展戦略が決定・公表されていたが、その目的が達成されたため、新たな戦略が立案され、2005年2月連邦政府閣議において承認されていた。この「2008年への銀行発展戦略」はロシアの銀行政策の基本で9章90項からなる長大な文書で、2002~2003年にIMF・世銀とロシア政府が共同で作業した「ロシア金融部門評価プログラム」の勧告を考慮して作成された。外国資本のロシア銀行部門への参加規定の整備、在外銀行の中銀保有株式売却、銀行の競争力引上げ措置、各種手続きの費用引下げと簡素化、等が含まれている。

**ロシアの国有銀行** ロシア中央銀行は旧ソ連以来の大銀行株を保有していたが、1998年経済危機後のIMF融資で中銀が保有していたズベルバンク(60.5%)と外国貿易銀行(99.9%)の2大銀行と在外5銀行の株式処分が条件になった。その後、2003年1月、**外国貿易銀行株**(99.9%)は連邦政府譲渡が決定された。他方、2003年12月に在外銀行のモ

スコー・ナロードニ・バンク、ロンドン(中銀保有89%)の100%子会社モスナル・バンクと北欧商業銀行(ユーロ・バンク)、パリ(中銀保有78%)の子会社ユーロ・フィナンスが合併して(株)ユーロフィナンス・モスナル・バンクになりロシアの銀行として登録された。さらに、2005年12月21日、ロシア中央銀行保有の在外銀行株を外国貿易銀行に譲渡する協定が調印され、外国貿易銀行は375億ルーブル増資して中央銀行保有の在外銀行株を買取り、同時に、中央銀行は保有していた外国貿易銀行株を財政安定基金に売却した結果、連邦政府が外国貿易銀行の大株主になった。しかし、**ズベルバンク株**の60.5%はなお中銀に保有されている。

ロシアで最も古い国有銀行の一つである**対外経済銀行**は旧ソ連の対外債務の政府代理機関で、現在も旧ソ連債務償還やCIS諸国への政府貸付を実施する完全なロシア政府金融機関であり、2002年には年金積立金運用の信託機関に指定され巨額の資金を運用している。他に政策金融機関には**ロシア開発銀行**、**ロシア農業銀行**、**ロシア輸出入銀行**がある。

**終わりに** ロシアの2005年銀行業績とくに損益状況が未公表であるが、中央銀行資料によると預金増と海外借入増による貸付とくに個人融資と証券投資の増加が、最近の銀行営業の特色といえる。預金保険制度と信用情報制度の新設は自動車ローンや住宅ローンを促進したといわれるが、本稿ではビジネス現場の実態に触れられなかった。今年には外国銀行参入がWTO加盟交渉の課題になり、また個人融資の増加による信用リスク対策、製造業・中小企業融資対策も残されている。